

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート (p.1739) にご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。



今月の連載関連本



誰も教えてくれなかった

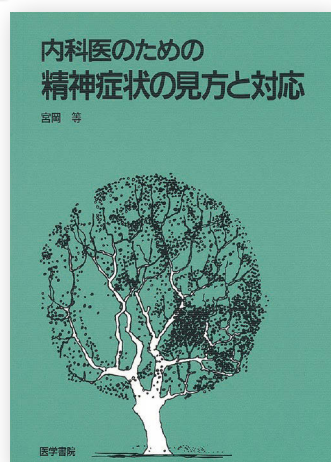
胸部画像の見かた・考え方

小林弘明=著

本体 5,000 円 + 税 / B5 判・266 頁 / 医学書院 / 2017

本誌連載「西伊豆発! 画像読影道場」(p.1679) が、惜しまれながら今月で最終回を迎えました。「もっと画像の見かたを学びたい」という方にタイムリーな新刊が。

見え方のメカニズムから理解する、目からウロコの胸部画像診断の入門書が登場! 胸部 X 線写真は、その仕組み、陰影の写り方、見方がわかれば、たった 1 枚の画像からより多くの情報を取り出すことができる。本書では、「疾患ありきではなく、どうしてその陰影・線が見えるのか?」「反対にどうして見えないのか?」などから紐解き解説。医学生、研修医をはじめ、すべての臨床医必読書。読影に役立つポケットシートつき。



内科医のための精神症状の見方と対応

宮岡 等=著

本体 2,800 円 + 税 / A5・160 頁 / 医学書院 / 1995

連載「野獣のリアル勉強法」の今回の執筆者・久村正樹先生 (p.1726) の“今までで一番勉強になった本”。「私の精神科の知識はほとんどこの本から」と久村先生。

内科をはじめとする精神科以外の医師および医療スタッフが知っておくべき精神症状の見方と対応について、明快に記述した実地書。軽症精神障害の見方と対応は若手精神科医にも大いに役立つ。①臨床に必須の知識をきちんとわかりやすく整理、②薬の使い方や患者に話す言葉をできるだけ具体的に例示、③精神科医に依頼したほうがよい場合は、その判断基準を明確に記述。